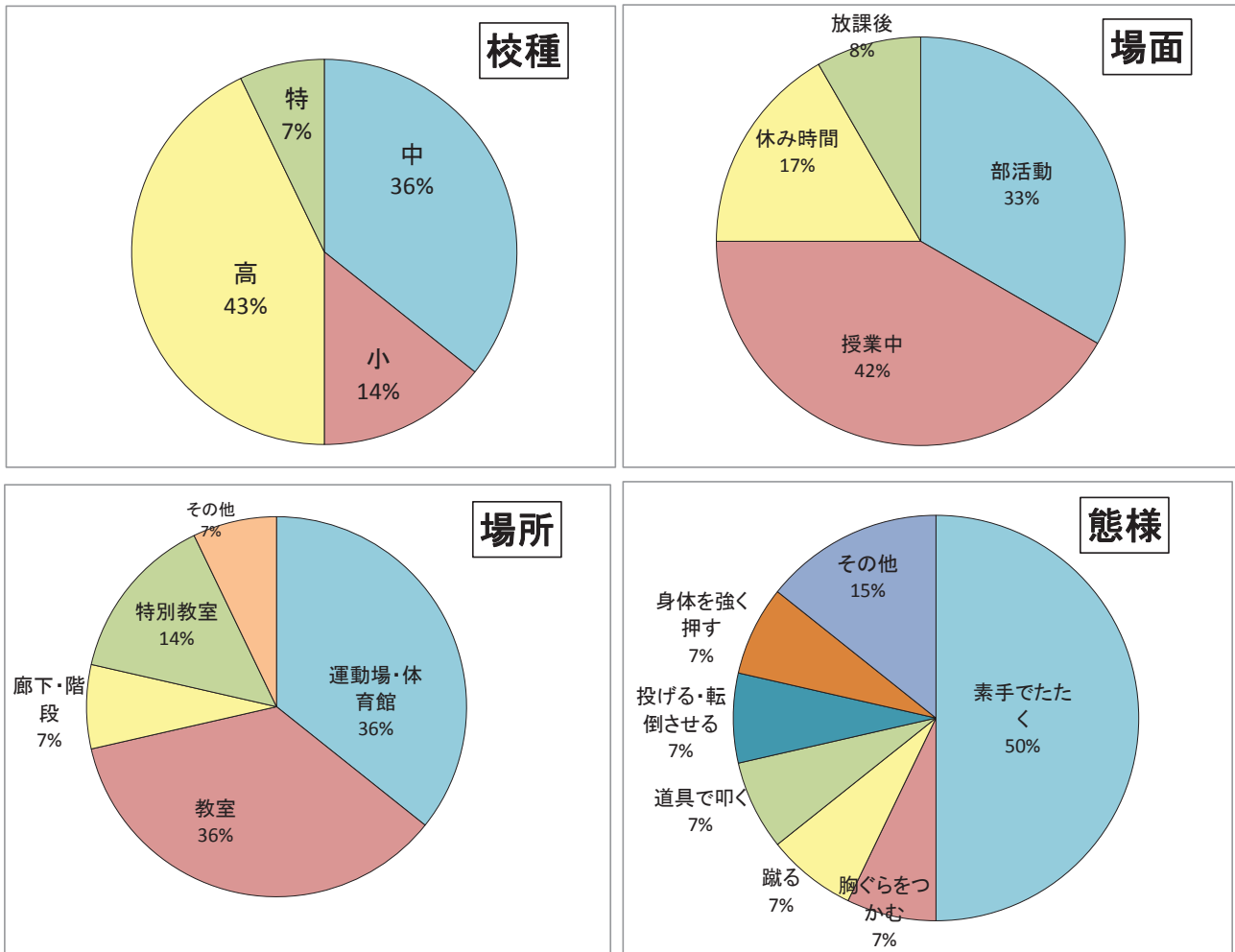


## 体罰データ



○校種別の内訳では、体罰発生件数のうち、43%が「高校」である。

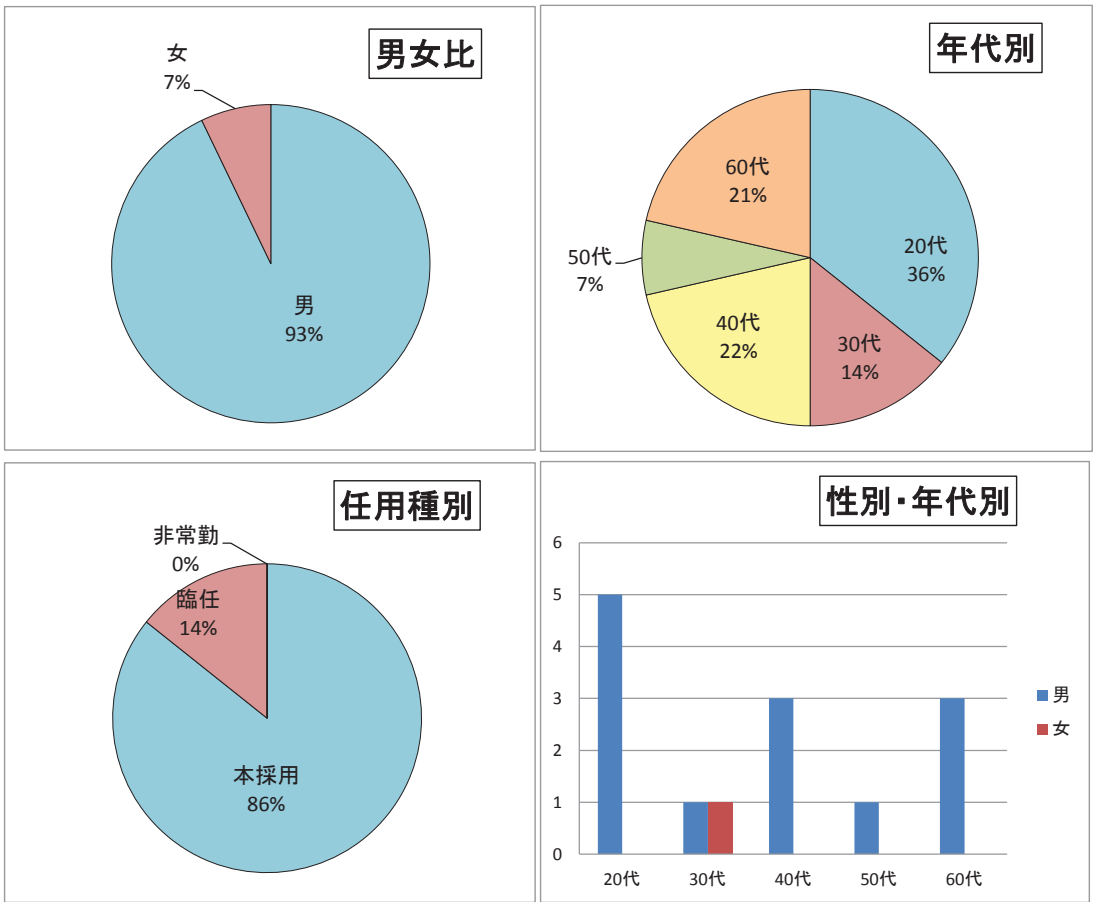
○体罰が行われた場面では、「授業中」及び「部活動中」の割合が高い。

○体罰が行われた場所では、部活動中及び授業中の体罰発生頻度の高さに関連して、「運動場・体育館」、「教室」の割合が高い。

○体罰の態様では、「素手でたたく」が半数を占めている。

○中学・高校における部活動中及び授業中の体罰防止が課題である。

# 事故者データ



○事故者の男女比では、「男性」がほとんどである。

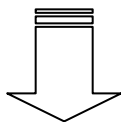
○年代別では、「20代」が36%と最も高く、次いで「40代」、「60代」が多い。

○任用種別では、「本採用」が大半であるが、「臨任」も14%程度いる。

○性別・年代別では、「20代男性」が最も多い。

## 事故者による自己分析

- 体罰に対する認識の甘さ。
- 自己の指導力を過信していた。
- 指導を事故者1人で行い、他の教諭との連携がなかった。
- 指導中の生徒の態度に腹を立て、教師としての自覚と自制心を失った。
- 生徒が事故者の指示に従わないことに対し、教師としての自覚と自制心を失った。
- 事故者の指示に対する被害児童の返事が生意気に聞こえたことに腹が立ち、指導が行き過ぎた。
- 言葉による指導では伝えられなかった。



## 体罰の発生要因

- 児童生徒に対して、過去に同様の指導を行っている。
  - 自分の指導が児童生徒に理解されているという誤解。
  - 自分の指導は正しいという慢心。
- 指導の効果が表れていない。
  - 指導効果が見られない落胆や失望感。
  - 児童生徒が指導を理解していないことに対する憤り。
  - 指導を行っても指導効果が見られないことによる焦り。
- 感情のコントロールができない。
  - 怒りに対する自己行動コントロール能力の欠如。
- 指導体制の脆弱さ
  - 課題の見られる児童生徒に対する指導を担当教諭のみに任せている。
  - 指導上の課題を共有する体制が不足。